RC ポリフェーズフィルタとヒルベルトフィルタの 関係性の考察

関山 燎* 田村 善郎 浅見 幸司 小林 春夫(群馬大学)

キーワード: RC ポリフェーズフィルタ、ヒルベルトフィルタ、複素信号、イメージ除去、I-Q 信号生成 Keyword: RC polyphaser filter, Hilbert filter, Complex signal, Image rejection, I-Q signal generation.

1. はじめに

RC ポリフェーズフィルタは、抵抗 R と容量 C から構成 され、入出力が I,Q 信号の複素信号の受動アナログフィル タである。イメージ除去や I,Q 信号生成(位相が 90° 異なっ た cos,sin 波発生)を行うことができ、無線通信システムの アナログフロントエンド部に使用されている。⁽¹⁾

この論文では RC ポリフェーズフィルタをヒルベルトフ ィルタの観点から考察したので報告する。すなわち、RC ポ リフェーズフィルタは入出力が複素信号の場合の理想ヒル ベルトフィルタ特性の近似であることを示す。

2. RC ポリフェーズフィルタの役割

図1に差動信号入出力の1次RCポリフェーズフィルタ を示す。RCポリフェーズフィルタの一つ目の役割として、 「単一入力信号からの、I,Q信号発生」が挙げられる。図2 に示すように、入力に実数部であるIinだけを入力する。虚 数部であるQinにはゼロを入力する。このような信号をポ リフェーズフィルタに入力すると、出力には、位相が90° 異なった、cos、sin波が発生される。一つの入力に対し、 位相の90°異なる二つの出力が得られることが特徴であ る。出力された二つの波は、ミキサーにcos、sin波を入力 するときなどに使用される。

二つ目の役割として図3に示すような「イメージ信号(負の周波数成分)除去」である。複素入力には負の周波数成分 が含まれ、RCポリフェーズフィルタを用いることで負の周 波数成分を取り除くことができる。







図 2 RC ポリフェーズフィルタによる余弦波、正弦波生成 Fig.2. Cosine and sine signal generation using an RC polyphaser filter.



Fig.3. Removal of image components.

3. ヒルベルトフィルタ

ヒルベルトフィルタは、1入力、2出力のフィルタであり、 位相が π/2 遅れた信号を生成するフィルタである。式(1)に 示す周波数特性を持つ。

$$H(\omega) = \begin{cases} -j \\ j \end{cases} = \begin{cases} e^{-j\pi/2} & (\omega > 0) \\ e^{j\pi/2} & (\omega < 0) \end{cases}$$
(1)

デジタルフィルタで実装されることが多いが、この論文 ではアナログフィルタの RC ポリフェーズフィルタでもそ の近似が実現できることを示す。Single Side Band(SSB)通 信で 90°移相を行う場合やデジタル通信の周波数シフト、 ジッター計測などにも幅広く用いられる。⁽²⁾⁽³⁾

RC ポリフェーズフィルタとヒルベルトフィル タの関連性



Fig.4. Input and output of the RC polyphase filter.

RC ポリフェーズフィルタのインパルス応答 h(t)を実部 hre(t)、虚部 him(t)に分けて考察を行う。hre(t)と him(t) のフーリエ変換を各々 Hre(ω),Him(ω)とし、2 つの入力のフ ーリエ変換を X(ω),Y(ω)とすると、フィルタ出力は、式(2) のように表すことができる。

 $\begin{aligned} (X(\omega) + jY(\omega)) \cdot (H_{re}(\omega) + H_{im}(\omega)) \\ &= (X(\omega)H_{re}(\omega) - \underline{Y(\omega)H_{im}(\omega)}) \\ &+ j(Y(\omega)H_{re}(\omega) + \underline{X(\omega)H_{im}(\omega)}) \end{aligned} \tag{2}$

下線部がヒルベルト変換であり、Hre を基準として Him の位相特性が $\pi/2$ であればよいといえる。そこで、H(ω)の 伝達関数から Hre(ω)と Him(ω)の伝達関数を抽出する。

RC ポリフェーズフィルタの伝達関数の定義式は式(3)で あり、図1より1次 RC ポリフェーズフィルタの伝達関数 は、式(4)のようになる。

$$H(j\omega) = \frac{I_{out}(j\omega) + jQ_{out}(j\omega)}{I_{in}(j\omega) + jQ_{in}(j\omega)}$$
(3)

$$H_1(j\omega) = \frac{1 + \omega R_1 C_1}{1 + j\omega R_1 C_1} \tag{4}$$

$$\left|H_{1}(j\omega)\right| = \frac{1 + \omega R_{1}C_{1}}{\sqrt{1 + (\omega R_{1}C_{1})^{2}}} \qquad \tan(\angle H_{1}(j\omega)) = -\omega R_{1}C_{1} \qquad (5)$$

H_{1re}とH_{1im}の導出

1. 式(4)で s=jω(等価的に ω=-js)とおき H(s)を求める

$$H_1(s) = \frac{1 - jsR_1C_1}{1 + sR_1C_1} \tag{6}$$

2.H(s)=Hre(s)+jHim(s)から、より H_{1re}(s),H_{1im}(s)を得る

$$H_1(s) = \frac{1}{1 + sR_1C_1} - j\frac{sR_1C_1}{1 + sR_1C_1}$$
(7)

$$H_{1re}(s) = \frac{1}{1 + sR_1C_1} \qquad H_{1im}(s) = -\frac{sR_1C_1}{1 + sR_1C_1} \tag{8}$$

3.s=jωと置いて、H_{1re}(jω), H_{1im}(jω)を得る

$$H_{1re}(j\omega) = \frac{1}{1+j\omega R_1 C_1} \qquad H_{1im}(j\omega) = -j\frac{\omega R_1 C_1}{1+j\omega R_1 C_1} \qquad (9)$$

式(4),(9)より、H₁(jω),H_{1re}(jω),H_{1im}(jω)の振幅特性を図 5、 位相特性を図 6 に示す。







of the first-order RC polyphase filter.

Hre と Him の相特性において、90° ずれておりヒルベルトフィルタと同じ特徴である。幅特性は Hre と Him が等しい場合以外は完璧なヒルベルトフィルタになっていない。そこで、よりヒルベルトフィルタに近い特性を持つ RC ポリフェーズフィルタは、ゼロ点が多い、つまり次数が高いフィルタではないかと考えた。

次節で高次の RC ポリフェーズフィルタの検討を行う。

5. 高次 RC ポリフェーズフィルタ

<5-1>2 次 RC ポリフェーズフィルタ

2次 RC ポリフェーズフィルタの伝達関数は、図7より求めることができ、式(10)のようになる。

$$H_{2}(j\omega) = \frac{(1+\omega R_{1}C_{1})(1+\omega R_{2}C_{2})}{1-\omega^{2}R_{1}C_{1}R_{2}C_{2}+j\omega(R_{1}C_{1}+R_{2}C_{2}+2R_{1}C_{2})}$$
(10)
伝達関数より、振幅、位相特性が式(11)になる。

$$\begin{aligned} \left|H_{2}(j\omega)\right| &= \frac{|1 + \omega R_{1}C_{1}||1 + \omega R_{2}C_{2}|}{\sqrt{(1 - \omega^{2}R_{1}C_{1}R_{2}C_{2})^{2} + \omega^{2}(R_{1}C_{1} + R_{2}C_{2} + 2R_{1}C_{2})^{2}}} \\ \tan(\angle H_{2}(j\omega)) &= \frac{\omega(R_{1}C_{1} + R_{2}C_{2} + 2R_{1}C_{2})}{\omega^{2}R_{1}C_{1}R_{2}C_{2} - 1} \end{aligned}$$
(11)

 H_{2re}, H_{2im} は1次RCポリフェーズフィルタと同様に求めることができ式(12)のようになる。

$$H_{2re}(j\omega) = \frac{1 + \omega^2 R_1 C_1 R_2 C_2}{1 - \omega^2 R_1 C_1 R_2 C_2 + j\omega (R_1 C_1 + R_2 C_2 + 2R_1 C_2)}$$

$$H_{2im}(j\omega) = -\frac{j\omega (R_1 C_1 + R_2 C_2)}{1 - \omega^2 R_1 C_1 R_2 C_2 + i\omega (R_1 C_1 + R_2 C_2)}$$
(12)

式(10),(12)より、H₂(jω),H_{2re}(jω),H_{2im}(jω)の振幅特性を図 8、位相特性を図 9 に示す。



図 7 2次 RC ポリフェーズフィルタ Fig.7. The second-order RC polyphase filter.



<5-2>3 次 RC ポリフェーズフィルタ

3次 RC ポリフェーズフィルタの伝達関数は、図 10 より 求めることができ、式(13)のようになる。

$$H_{3}(j\omega) = \frac{N_{3}(\omega)}{D_{3R}(\omega) + j D_{3I}(\omega)}$$
(13)

$$N_{3}(\omega) = (1 + \omega R_{1}C_{1})(1 + \omega R_{2}C_{2})(1 + \omega R_{3}C_{3})$$

$$D_{3R}(\omega) =$$

$$1 - \omega^{2}[R_{1}C_{1}R_{2}C_{2} + R_{2}C_{2}R_{3}C_{3} + R_{1}C_{1}R_{3}C_{3} + 2R_{1}C_{3}(R_{2}C_{2} + R_{2}C_{1} + R_{3}C_{2})]$$

$$D_{3I}(\omega) =$$

$$\omega[R_{1}C_{1} + R_{2}C_{2} + R_{3}C_{3} + 2(R_{1}C_{2} + R_{2}C_{3} + R_{1}C_{3})] - \omega^{3}R_{1}C_{1}R_{2}C_{2}R_{3}C_{3}$$

伝達関数より、振幅、位相特性が式(14)になる。 $|H_3(j\omega)| = \frac{|N_3(\omega)|}{\sqrt{D_{3R}(\omega)^2 + D_{3I}(\omega)^2}} \quad \tan(\angle H_3(j\omega)) = -\frac{D_{3I}(\omega)}{D_{3R}(\omega)} \quad (14)$

 H_{3re}, H_{3im} は1次RCポリフェーズフィルタと同様に求めることができ 式(15)のようになる。

$$H_{3re}(j\omega) = \frac{1 + \omega^2 (R_1 C_1 R_2 C_2 + R_2 C_2 R_3 C_3 + R_3 C_3 R_1 C_1)}{D_{3R}(\omega) + j D_{3I}(\omega)}$$

$$H_{3im}(j\omega) = -j \frac{\omega (R_1 C_1 + R_2 C_2 + R_3 C_3) + \omega^3 R_1 C_1 R_2 C_2 R_3 C_3}{D_{3R}(\omega) + j D_{3I}(\omega)}$$
(15)

式(13),(15)より、H₃(jω),H_{3re}(jω),H_{3im}(jω)の振幅特性を図 11、位相特性を図 12 に示す。





Fig.10. The third-order RC polyphase filter.



Fig.11. Gain characteristics of the third-order RC polyphase filter.



Fig.12. Phase characteristics of the third-order RC polyphase filter.

<5-3>4次RCポリフェーズフィルタの伝達関数は、図13より
水めることができ、式(16)のようになる。

$$H_4(j\omega) = \frac{N_4(\omega)}{D_{4R}(\omega) + j D_{4I}(\omega)}$$
 (16)
 $N_4(\omega) = (1 + \omega R_1 C_1)(1 + \omega R_2 C_2)(1 + \omega R_3 C_3)(1 + \omega R_4 C_4)$
 $D_{4R}(\omega) = 1 - \omega^2 [R_1 R_2 (C_1 C_2 + 2C_1 C_3 + 2C_1 C_4 + 2C_2 C_3 + 2C_2 C_4) + R_2 R_3 (C_2 C_3 + 2C_2 C_4 + 2C_3 C_4) + R_3 R_4 C_3 C_4 + R_1 R_3 (C_1 C_3 + 2C_1 C_4 + 2C_2 C_3 + 4C_2 C_4 + 2C_3 C_4) + R_2 R_4 (C_2 + 2C_3 C_4) + R_4 R_4 R_2 R_3 R_4 (C_2 + 2C_3 C_4) + R_2 R_4 (C_2 - 2C_3) C_4] + \omega^4 R_1 R_2 R_3 R_4 C_1 C_2 C_3 + 2R_1 C_4 + 2R_2 C_3 + 2R_2 C_4 + 2R_3 C_4 + 2R_1 C_2 + 2R_3 C_4 + 2R_1 C_2 + 2R_3 C_4 + 2R_2 C_3 + 2R_2 C_4 + 2R_3 C_4 + 2C_1 C_3 C_4 + 2C_2 C_3 C_4) + R_2 R_3 R_4 C_2 C_3 C_4 + R_1 R_2 R_4 (C_1 C_2 C_4 + 2C_1 C_3 C_4 + 2C_2 C_3 C_4) + R_2 R_3 R_4 C_4 (C_1 C_3 C_4 + 2C_2 C_3 C_4) + R_1 R_3 R_4 (C_1 C_3 C_4 + 2C_2 C_3 C_4)]$

伝達関数より、振幅、位相特性が式(17)になる。

$$|H_4(j\omega)| = \frac{|N_4(\omega)|}{\sqrt{D_{4_{k}}(\omega)^2 + D_{4_{l}}(\omega)^2}} \quad \tan(\angle H_4(j\omega)) = -\frac{D_{4_{l}}(\omega)}{D_{4_{k}}(\omega)} \tag{17}$$

 H_{4re}, H_{4im} は1次RCポリフェーズフィルタと同様に求めることができ式(18)のようになる。

$$H_{4re}(j\omega)$$

$$= \frac{1}{D_{4R}(\omega) + j D_{4I}(\omega)} \left\{ 1 + \omega^2 (R_1 C_1 R_2 C_2 + R_2 C_2 R_3 C_3 + R_3 C_3 R_4 C_4 + R_4 C_4 R_1 C_1 + R_1 C_1 R_3 C_3 + R_2 C_2 R_4 C_4) + \omega^4 R_1 C_1 R_2 C_2 R_3 C_3 R_4 C_4 \right\}$$

$$= -\frac{1}{D_{4R}(\omega)} \left\{ j \omega (R_1 C_1 + R_2 C_2 + R_3 C_3 + R_4 C_4) + \omega^2 R_1 C_1 R_2 C_2 R_3 C_3 R_4 C_4 \right\}$$
(18)

 $-j\omega^{3}(R_{1}C_{1}R_{2}C_{2}R_{3}C_{3}+R_{2}C_{2}R_{3}C_{3}R_{4}C_{4}+R_{3}C_{3}R_{4}C_{4}R_{1}C_{1}+R_{4}C_{4}R_{1}C_{1}R_{2}C_{2})\}$

式(16),(18)より、H(jω),H_{4re}(jω), H_{4im}(jω)の振幅特性を図 14、位相特性を図 15 に示す。



図 13 4次 RC ポリフェーズフィルタ

Fig.13. The fourth-order RC polyphase filter.



図 14 4次 RC ポリフェーズフィルタの振幅特性

Fig.14. Gain characteristics of the fourth-order RC polyphase filter.



6. まとめ

本論文では、RC ポリフェーズフィルタは入出力が複素信 号の場合の理想ヒルベルトフィルタ特性の近似であること を考察し、1~4 次までの RC ポリフェーズフィルタの数式、 シミュレーションでの検証を行った。

振幅特性において、ゼロ点の場所では Real part と Imaginary part の特性が一致し、高次であるほどゼロ点の 数が増加し、広範囲で Real part と Imaginary part の振幅 特性が近くなることを確認した。

位相特性において 1~4 次の RC ポリフェーズフィルタ回 路の伝達関数から入力出力間に完全な 90 度位相差であり、 広域でヒルベルト変換が可能なことを確認した。

二つの特性より、RCポリフェーズフィルタは高次になる ほどヒルベルトフィルタの理想特性に近づくことを確認した。

「RC ポリフェーズフィルタがヒルベルト変換の近似」で あることを示したことから、将来的にこのフィルタを用い て複素信号処理をアナログ信号のままでできる、という可 能性がある。高速、広帯域な通信や第5世代で検討されて いるミリ波通信で、(デジタル処理が追いつかないような高 周波・高速信号処理で)特に役に立つことが期待できる。

参考文献

- (1) 山口 宣 他:「RC ポリフェーズ・フィルタの解析-高次フィルタ伝達 関数、ナイキスト線図の導出、寄生容量の影響の解析-」電子情報通 信学会技術研究報告.回路とシステム 102(572), 29-34, 2003-01-15
- (2) 高橋康宏 他:「CSD 表現 FIR フィルタを用いたヒルベルト変換器の設計」電気学会研究会資料. ECT, 電子回路研究会 2001(42), 7-12, 2001-06-29
- (3) T. Yamaguchi, M. Soma, M. Ishida, T. Watanabe, T. Ohmi, "Extraction of Instantaneous and RMS Sinusoidal Jitter Using an Analytic Signal Method," IEEE Trans. Circuits and Systems-II, vol. 50, no. 6, pp. 288-298, June 2003.